

## 林業に理解深める

大和北小児童が工場見学



のこぎりで木材を切る児童＝郡上市大和町島、ヤマシタ工務店岐阜工場

郡上市大和町剣の大日、同町島の大和工業  
和北小学校の児童は7団地のヤマシタ工務店

岐阜工場を訪れ、住宅に使われる木材加工や林業の現状などについて学んだ。

同校の総合学習の一環で同社の協力を得て行われ、5年生23人が参加した。同社岐阜工場は木材を梁や柱に加工するプレカット工場で、製品は同社の施工で使われる。

同社の石田幸次常務は木の生育や木が製品になるまでの工程を説明。また、「岐阜県は森林率が高知県に次いで全国2位」と紹介すると児童は驚いた様子だった。

一方で「林業に携わる人が減り、山の手入れが進まず荒れる山が多い。国などが間伐や作業道の整備などで支援をしている」と課題にも触れると、児童

は真剣な表情で聞いた。

講話の後児童は、のこぎりで木材を切ったり、木材の接合金具を取り付けたりする作業に挑戦した。参加した村瀬陽香さん(11)は「小さい頃、おじいちゃんの手伝いで木を切ったことはあるけど、今日の木は切るのが難しかった」と話した。

(佐名妙予)

## 大和北小生ら 材木に親しむ

### 郡上の工場を見学

郡上市大和北小学校の五年生が七日、野外授業で同市大和町のヤマシタ工務店岐阜工場を見学した。

児童ら二十五人は同工務店の石田幸次常務執行役員から、森林が水を蓄え洪水を防いでいることやスギの木二十三本で一人分の酸素をつくることなど、森林の役割や生活、環境とのつながりを学んだ。のこぎりで材木を切ったり、金物どめを金づちで打ったりする体験も。「節のところは硬い」「年輪を数えれば樹齢がわかる」などの特質を聞き、やすりで木工品を磨いて木

材木をのこぎりで切る体験をする児童＝郡上市大和町で



に親しんだ。

のこぎりを使った西川太輔君は「材木は最初硬かったけれど、切っているうちにだんだん柔らかくなり面白かった」と話した。

(堀亮)